

日米医学医療交流財団 研修助成

研修報告書 (2014年度 助成者)

作成日 2014年10月23日

氏名 (フリガナ)	西田 裕未 (ニシダ ヒロミ)
研修名・研修地	アメリカ短期看護研修 (アメリカ・オレゴン州ポートランド市)
研修期間	2014年10月12日 (日) ~ 10月18日 (土)
所属機関名 身 分	申請時：松下記念病院 / 研修時：休職中 看護師 (事務局記)

今回アメリカの医療現場を一度見てみたいという、興味本位で参加しましたが、たくさんの学びを得ることができました。まず、日本とアメリカの看護制度の違いに衝撃を受けました。看護師が働きやすい環境作りこそが病院の質・看護の質を上げ、患者満足度向上に繋がるという考えのもと、マグネットホスピタルという施設認定があるということです。看護師のオーバーワークは日本でも問題になっていますが、なかなか改善していけていないのが現状です。今後は日本もこのような制度が普及していくようなになればと思います。

また、看護師の教育制度においても学生の段階から患者様のフィジカルアセスメントに重きをおいていることに感心しました。日本では、学生は机上の学生主体となり現場に出てからのギャップが大きいのではないかと感じました。

アメリカのナースングシステムは分業化されており働きやすい環境が整っていると感じましたが、患者さんとの距離が近く関係性が築きやすいのは日本の看護体制ではないかとも感じました。

ドーンベッカー小児病院へ訪問した際に、チャイルドケアスペシャリストの方のお話を聞きました。私は小児科でも勤務経験があり、小児に点滴や手術などの治療を受ける意味を説明し理解を得るのにオリエンテーションを行ってはいましたが、時間の制約もあり満足いく関わりができていませんでした。実際にチャイルドケアスペシャリストの方のレクチャーを見て、この関わりなら子供が楽しく点滴の必要性などを理解することができるのではないかと思いました。また、チャイルドケアスペシャリストの方の仕事は、治療の必要性を理解させることだけではなく、子供・兄弟に死を理解させることもあると聞き、実際のお話を聞くことができました。日本にはまだまだチャイルドケアスペシャリストという職業が普及しておらず、全国で30名未満だと聞きました。今後、日本でももっと必要とされ普及していく職種ではないかと感じました。

研修報告書に書ききれない程のたくさんの学びを得た研修でした。もちろん、研修イコール学びの場ではありますが、滝を見に行ったり市内を散策したり、オシャレな食事をしたり、ワイナリーへ行ったりとフリータイムも魅力的で楽しい時間でした。

この研修に参加するまでは不安も多かったですし、研修に参加すること自体に勇気がいりましたが、本当にたくさんの学びと新しい仲間・楽しい思い出ができ最高の体験となりました。